

1 - 2 槇峰における土地傾動

京大理 一 戸 時 雄

1. 観測の場所と観測器械

観測地の名称：京都大学防災研究所槇峰地殻変動観測室

所在地：宮崎県東臼杵郡北方村槇峰

三菱金属鉱業株式会社槇峰鉱業所 2 坑内

位置：北緯 32° 37′

東経 131° 27′

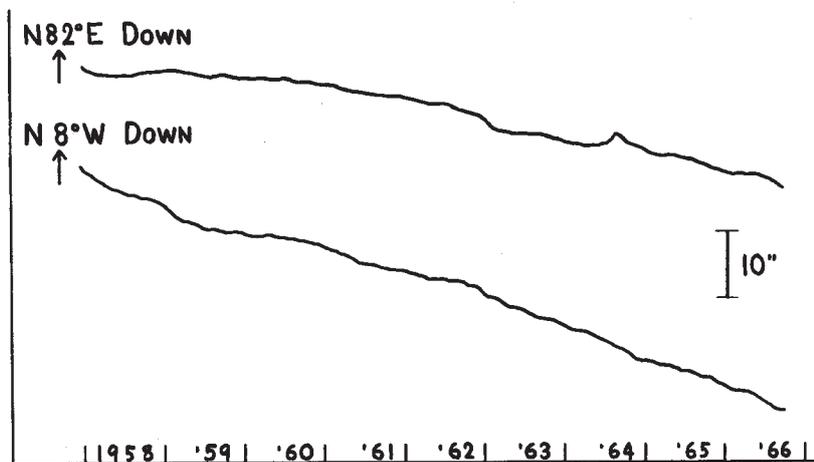
海拔 130m

地表下 165m

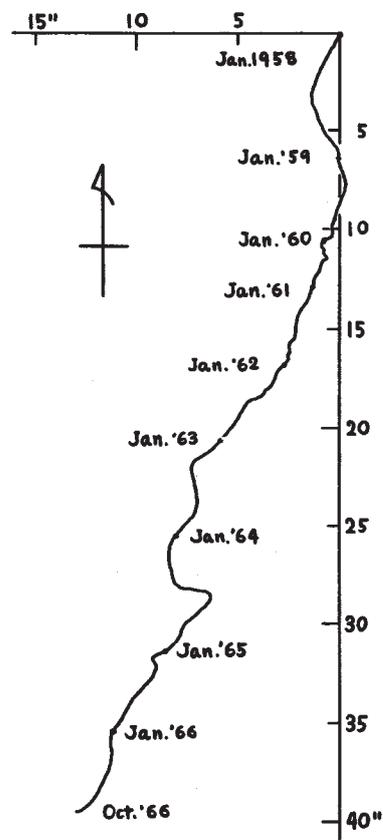
観測器械：インバール製水平振子型傾斜計 2 成分

2. 観測結果の概要

槇峰における土地傾動の観測は 1942 年 1 月に開始され、今日に及んでいるが、その間に採鉱の都合による観測室の移転、観測器械の変更等により、観測は数回中断された。第 1 図は、1958 年から 1966 年までの約 9 年間にわたる 2 方向の傾斜変化の連続記録の結果を示したものであり、第 2 図はこれをベクトル化したものである。大勢として、槇峰の観測地点では約 9 年間に、地盤が南南西に約 40″ 傾斜したことになるが、地下深部では岩圧のため坑道そのものが変形することが考えられるので、約 40″ という傾斜量がそのままその地域一帯の土地変動を代表するものと考えことは危険である。大勢として南南西に傾斜しているほかに、日向灘の地震群による局所的な傾動が見られるが、日向灘地震群と槇峰の局部傾動との関係については、既に詳細に報告されているので (1, 2) ここでは省略する。



第 1 図



第 2 図

1. 一戸時雄・田中 豊：地震活動に関係した地殻の異常変動、測地学会誌、10 卷 3 - 4 号
(1964) pp.154 ~ 162
2. 田中 豊：地震に伴なう地殻異常変動の諸段階について、京都大学防災研究所年報、8 号
(1965) pp.91 ~ 108